

雲仙市文化財調査報告書 第6集

i ko
伊古遺跡 II

(縄文時代草創期編)

—古江地区県営園場整備事業に伴う発掘調査報告—



2009

長崎県雲仙市教育委員会



遺跡上空より有明海を望む（中央に流れる西郷川）

雲仙市文化財調査報告書 第6集

i ko
伊古遺跡 II

（縄文時代草創期編）

—古江地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告—

2009

長崎県雲仙市教育委員会

発行にあたって

このたび平成17年度・平成18年度に実施しました古江地区圃場整備事業に伴う伊古遺跡の発掘調査の報告書を発刊することになりました。当市は平成17年10月11日（^と10に^い11日）に7町（国見町・瑞穂町・吾妻町・愛野町^ま・千々石町・小浜町・南串山町）が合併して誕生し、「豊かな大地・輝く海とふれあう人々で築くたくましい郷土」の実現を目指しています。

伊古遺跡は、高原半高の北側に位置し、標高約20mの扇状地台地上の水田地帯にひろがります。西側には西郷川が流れ、遺跡東端は雲仙普賢岳の麓より舌状の丘陵が続きます。また、遺跡の南側には雲仙普賢岳がそびえ、頂上付近には平成新山と名付けられた溶岩ドームが噴火の生々しさを今に伝えています。北側に目を移せば、眼下に有明海が広がり、佐賀県・福岡県・熊本県までも一望することができます。

平成19年度にも、調査の概要を報告しておりますが、これまでの調査において、遺跡からは縄文時代草創期から中世までの幅広い時代の遺物・遺構が発見されており、その埋蔵量は計り知れないほどです。弥生時代後半～古墳時代初頭の集落や中世の集落では、住居跡や堀跡、墓域なども確認されており、当時の人々の暮らしぶりを^{まじ}勢揃とさせます。対岸の熊本地方で作られたと考えられる土器や、遠く中国大陸で焼かれた青磁など、海をも越えた交流の証が見つかっており、伊古遺跡の文化的・経済的卓越ぶりが見て取れます。

今報告では、遺跡より検出された縄文時代草創期の遺物について報告いたします。遺跡東端の丘陵崖面直下から多くの細石器が発見されており、わずか100m²ほどの範囲に総数1,500点を超える石器が発見されています。そのほとんどが細石刃製作に関わる黒曜石片で、1cmに満たないものも多く見られます。また、細石核の出土も50点を超え、拠点的な細石刃製作遺跡と考えられます。小さいながらも整然と作りこまれた細石刃を見ると、古代の人々の石器にこめた思いを感じずにはおれず、当地で暮らした祖先たちの生活の様相をうかがい知ることができます。

雲仙市の緑豊かな農業地帯も、近年の農業基盤整備に伴い大きく変貌しております。このような情勢の中で、祖先の貴重な文化遺産を保護し、これを後世に伝えることは、私たちに課せられた重要な責務であります。本市では、このような事態に対処するため、遺跡発掘調査を行い保存・保護に努めてまいりました。そして調査の成果を公開する一つの手立てとして報告書を作成いたしました。遺跡の宝庫といわれる本市にとりましては、貴重な歴史と文化を理解するうえで大きな役割を果たすものと期待しております。

最後になりましたが、今回の調査に当たり、地元地権者の皆様、工事関係者の皆様、大学・博物館関係の諸先生方ならびに長崎県教育委員会学芸文化課の皆様のご指導に衷心から感謝申し上げます。

平成21年3月23日

雲仙市教育委員会
教育長 塩田 貞祐

例 言

1. 本報告は平成17年度～平成18年度（2005年～2007年）に実施した古江地区異嘗圃場整備事業に伴う長崎県雲仙市瑞穂町に所在する伊古遺跡の発掘調査の報告である。
2. 調査は田瑞穂町教育委員会及び雲仙市教育委員会が担当した。調査は下記の期間実施した。
2005年8月17日～2006年3月24日
伊古遺跡C区
2006年4月20日～2007年3月20日
伊古遺跡D2区
3. 調査体制は次のとおりである。
瑞穂町教育委員会（2005/4/1～2005/10/10）
教 育 長 小峰 辰雄
教 育 次 長 小田 雅夫
係 長 内田 啓介
主 査 宮崎 博久
調査担当
文化財調査員 安樂 哲史
雲仙市教育委員会（2005/10/11～2007/3/31）
教 育 長 鈴木 勝利
教 育 次 長 辻 政実
生涯学習課長 岩永 判二
文化財班班長 柴崎 孝光
主 査 辻田 直人
主 事 徳永 真幸
調査担当
主 査 江崎 亮太
文化財調査員 安樂 哲史（～2006/3/31）
文化財調査員 山下 美郷・益田 豊明（2006/4/1～）
現体制（平成20年度）
教 育 長 鈴木 勝利（～12/1）
教 育 長 塩田 貞祐（3/1～）
教 育 次 長 塩田 貞祐（～2/28）
生涯学習課長 川鍋 嘉則
課 長 補 佐 金子 悦治
文化財班班長 田中 卓郎
文化財班係長 江崎 亮太
主 査 辻田 直人
主 事 徳永 真幸
文化財調査員 山下 美郷・小野 綾夏・大野 瑞恵
文化財整理員 早稲田一美・柳原亜矢子・林田 崇
4. 現地での遺構・遺物の実測は進藤涼子・前田チイ・吉川 新・水谷安孝・東 文子・竹田将仁（別府大学）・江崎・安樂・山下・益田が行い、遺物の実測は辻田・小野・早稲田・大野・山下・益田・水谷・林田が、トレースは早稲田が行った。また、図版の編集・作成は辻田・小野・早稲田・柳原・中尾さとみ・濱本あさみが、写真は現地調査を江崎・安樂・山下・益田が、遺物写真は辻田・小野・柳原が行った。写真編集は小野が行った。
5. 出土遺物の取り上げ、掲載ドットマップの作成及び遺物実測の一部は熊埋蔵文化財サポートシステム長崎支店に委託した。
6. 自然科学分析は熊古環境研究所に委託した。
7. 空中写真撮影業務は㈲リモートセンシングスカイサーバイ九州に委託した。
8. 本遺跡の遺物及び写真・図面等は雲仙市国見神代小路歴史文化公園 歴史民俗資料館で保管している。
9. 本書で用いた方位はすべて真北であり、国土座標は世界測地系による。
10. 現地調査および本書の刊行にあたり多くの方々からご助言いただいた、記して謝意を表します。長岡信治（長崎大学教育学部教授）、早田 勉（駒火山考古学研究所）、川道 寛（長崎県教育員会）、渡邊康行（熊埋蔵文化財サポートシステム）、杉原敏之（福岡県教育委員会）、本田秀樹（長崎県立北高等学校）、山口勝也（熊埋蔵文化財サポートシステム）、長崎県学芸文化課、長崎県高原振興局農村整備課、西郷土地改良区、雲仙市農漁村整備課、九州旧石器文化研究会、長崎県考古学会、瑞穂史談会、熊願宝建設、熊富士建設、(順不同)
11. 本書の執筆・編集は辻田による。

目 次

巻頭図版

発行にあたって

例言

本文目次

挿図目次

表目次

図版目次

第1章 調査の経緯 1 p

第1節 発掘調査にいたる経緯

第2節 発掘調査の方法及び経過

第3節 遺跡の地理的・地形的環境

第2章 基本土層 4 p

第1節 各調査地点の対比

第3章 縄文時代草創期 5 p

第1節 土器

第2節 石器

第4章 自然科学分析 31 p

第1節 火山灰(テフラ)

第2節 放射性炭素年代測定結果

第3節 植物珪酸体分析

第5章 まとめ 43 p

第1節 総括

第2節 まとめ

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図 (1/20,000)	
第2図	平成18年度までの調査区配置図 (1/1,500)	3
第3図	基本土層の対比	4
第4図	D2区 第X a層出土土器 (1/3)	5
第5図	D2区 遺物出土状況平面分布・垂直分布 (1/150)	6
第6図	D2区 遺物出土状況 (第X a層~第X c層) (1/100)	7
第7図	D2区 第X a層遺物出土状況 (1/100)	9
第8図	D2区 第X a層出土細石刃 (完形頭部) (2/3)	11
第9図	D2区 第X a層出土細石刃 (中間部・先端部) (2/3)	12
第10図	D2区 第X a層出土細石核及び細石器関連遺物 (2/3)	15
第11図	D2区 第X a層出土尖頭状石器・ノッチ・石斧・細石器関連遺物 (2/3)	16
第12図	D2区 層位外出土細石核 (2/3)	18
第13図	D2区 第X b層遺物出土状況 (1/100)	23
第14図	D2区 第X b層出土細石器関連遺物 (2/3)	25
第15図	D2区 第X c層遺物出土状況 (1/100)	27
第16図	D2区 第X c層出土細石器関連遺物 (2/3)	29
第17図	C区及び他調査区出土細石核 (2/3)	30
第18図	D2区 第X a層石材別遺物出土状況 (1/200)	45
第19図	D2区 第X b層石材別遺物出土状況 (1/200)	46
第20図	D2区 第X c層石材別遺物出土状況 (1/200)	47
第21図	D2区 第X a・X b層及び第X c層の主な出土遺物 (1/3)	48
参考資料	雲仙市国見町「小ヶ倉A遺跡」縄文草創期遺物 (1/3)	21

表 目 次

第1表	伊古遺跡D2区 第X a層出土細石刃計測表	10
第2表	伊古遺跡D2区 第X b層出土細石刃計測表	22
第3表	伊古遺跡D2区 第X c層出土細石刃計測表	26
第4表	伊古遺跡D2区 第X a・X b層及び第X c層出土遺物計測表	50
第5表	層位別出土石器組成表	50
第6表	出土石器計測表	53~57

図 版 目 次

中表紙図版 遺跡上空より有明海を望む（中央に流れる西郷川）

21頁 参考資料 雲仙市国見町「小ヶ倉A遺跡」縄文草創期遺物（1/3）

図版 1

遺跡上空写真（昭和35年度国土地理院）

図版 4

D 2 区第 X a 層出土石器（2/3）

図版 2

C 区・D 2 区遠景（南より）
D 2 区調査風景（右の高台が丘陵）
D 2 区掘削状況
D 2 区土層堆積状況
C 区トレンチ土層堆積状況

図版 5

D 2 区層位外出土細石核（2/3）

図版 6

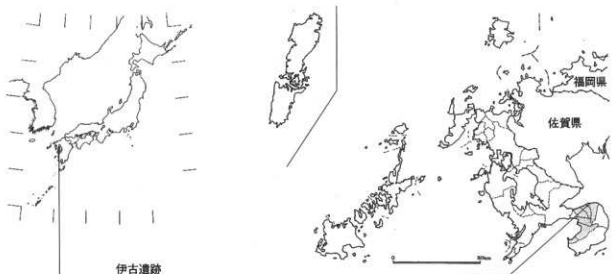
D 2 区第 X b 層出土石器（細石刃：1/1、
その他：2/3）

図版 3

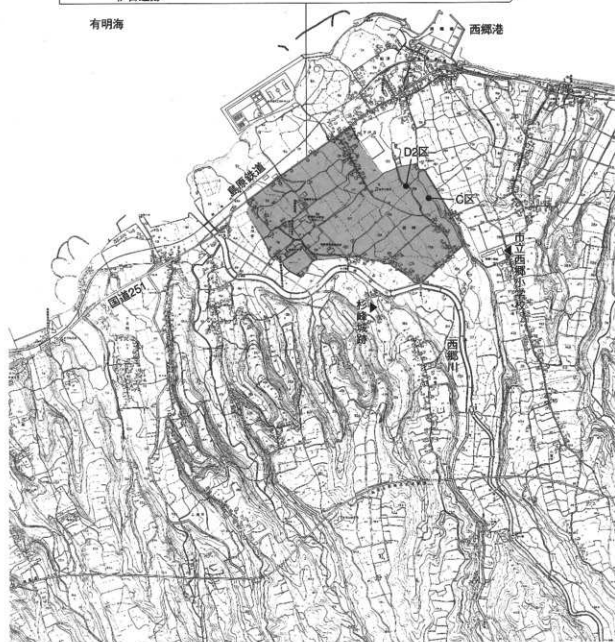
D 2 区第 X a 層出土細石刃（134は天地逆）
（1/1）

図版 7

D 2 区第 X c 層出土石器（細石刃：1/1、
その他：2/3）
C 区及び他調査区出土細石核（2/3）
D 2 区第 X a 層出土土器（1/2）



有明海



第1図 遺跡位置図 (1/20,000)